

## 社 報



## 人の値打ちとは……

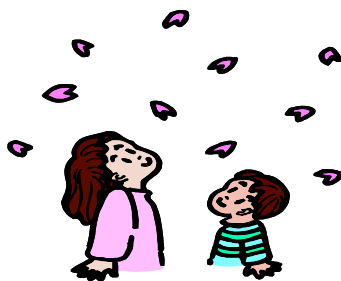
## 兼喜会の役員に

清水建設は建設会社で大手5社の一角を占める、建設会社です。

その下請け工事を行う、協力業者の数も大変多く、大阪支店だけでも400社以上の会社が存在します。

その中心的組織が兼喜会です。下請名義人会として会員数は120社余りで組織され、当社の先代会長、森本博氏は第4代の会長(現、北浦会長の前任)を努めておりました。

当社社長、森本隆之は本年1月より、理事に就任しました。これも皆様のお陰と、御礼と感謝を申し上げます。



もうすぐ、桜が……

難しい表題をつけてしまいました。人生の後半に入るに従い、人間の人生とは何だろうか、考えることがあります。

会社社会では、肩書きや役職とかいうものがあります。例えば、社長・専務・常務・部長・課長・主任など、様々な役職があるわけです。

家庭の中では、役職はありませんが、父親・母親・兄・弟・姉・妹など、肉親関係があります。

会社や家庭以外でも、町内会・親戚付き合い・PTA・趣味の会・などなど、明確な序列はないにしても、なんとなく立場みたいなものがあります。

これらの、序列・地位・順位などは、だいたい年齢に関係しているように思います。日本では古くから儒教の教えが強く、礼節を重視し、年長者を敬う慣習があります。

このことは悪いことではなく、現代社会でも大事にしていかなければなりません。

しかし、年齢を重視した序列・順位には、ある前提があることを忘れてはいけません。

この前提なしには、年齢を重視した序列・順位の仕組みは意味を持たないと思うのです。

儒教は孔子の教えを元に発展したものであり、これは宗教ではなく、学問です。人の生きる様を解いた哲学のような学問です。

ですから、信じる者は救われるではなく、儒教の前提は、学べば学ぶ程に人は成長することにあります。人の能力が、もし仮に一定であるとしたら、人は学べば学ぶ程に成長しますから、年齢を重ねれば重ねる程知識を得て、思慮深くなり、努力を惜しまぬ人間に成長するわけです。

ここに年長者を敬う大きな意義があるわけです。このことを忘れて、上司や先輩や、古株や年長者であると、大きな態度を振舞うようでは、若年者から尊敬を得ることはできません。

いろいろな組織では、体面を思い、年長者を役職につけますが、本来は努力・精進を怠らず、若年者を導くことができこそその役職です。

現代社会が礼節を失っていくと言われますが、これも人生の先輩である人々に責任の一端があるのかも知れません。人の値打ちとは、役職や肩書きで決まるではありません。

年長者たる年長者として存在できること。これもひとつの人間の値打ちではないかと思えます。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

## 緊張と緩和

不安全行動による事故が跡を経ちません。幸いに当社では事故がありませんが、業界では多く発生しています。そして、緊張感がない、気合が入っていない、など当たり前の言葉が原因として言われています。

しかし、人間一日働いている間、緊張し続けることが本当にできるのでしょうか。はなはだ疑問です。

緊張の反対の言葉として、緩和という言葉があります。そう、緊張は緩和の反対でありますから、緩和がないところには、緊張も生まれません。一日の仕事の中で、緊張すべき時は緊張し、気を緩めるときは緩める。これを、仕事の内容と連携して、適切に繰り返すことが、安全な作業につながると思います。いかがでしょうか。ご安全に！

## 2008年 安全成績

現場災害 H20.1.1-H20.3.10	
休業災害	----- 0
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 0
交通災害 H20.1.1-H20.3.10	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0